

古来の水防

古来より、水防活動は治水の中で重要な役割を果たしてきており、これらの実施は、村落を中心とした自衛的な水利組織が行っていました。江戸時代においては、五人組への水防の義務付けや水防活動としての竹林の植栽等に関する諸制度もありました。

吉野川においても、水害防御の窮余の策としての水防竹林が今もなお残されており、現在でも重要な役割を果たしています。さらには、洪水に対する自衛手段として、城構えの家もあり、水防に対する当時の面影が伺えます。



三加茂の水防竹林



城構えの家